

平成9年度共同研究費研究経過報告書

- 1、研究期間 平成9年度（単年度）
- 2、研究課題 集落の保存方法に関する基礎研究
（ケーススタディ－その1 琵琶湖湖北、尾上集落・菅浦集落）
- 3、研究分担者
森下清子 多摩美術大学 教授
渡部一二 多摩美術大学 教授
小西敏正 宇都宮大学 教授
葛西 潔 多摩美術大学 非常勤講師
岩下 穰 多摩美術大学 助手（在職時）
- 4、研究経費 平成9年度 80万円
- 5、研究経過 研究目的（平成9年度 多摩美術大学 共同研究計画書）により下記の基礎調査を終了している。
 - ・生活文化が集落および住居におよぼす影響に関する基礎調査
琵琶湖尾上集落 1992年（多摩美術大学研究紀要）
菅浦集落 1995年（多摩美術大学研究紀要）
にて形態、状況調査をした。
 - ・今期計画予定された生活調査を平成9年8月に実施した。
内容 日常の生活、家屋について、外部環境（別紙）、
について聞き取り調査し集計した。
 - ・上記の調査分析により今期研究課題の中心である集落の
保存方法について分析構成中である。
- 6、研究成果報告書として取りまとめられない理由
保存方法についての調査、分析が遅れているため。
- 7、研究成果の取りまとめ予定。
平成11年度日本建築学会地域計画シンポジウムにて発表
予定（平成11年2月研究論文原稿提出、7月発表）。

屋号（地図に場所記入）

家族構成	1 主人	年齢	
	2 妻		実家先
	3 子供		
	4		
	5		

1、日常生活

・ 家族の行動範囲

	1 主人	目的（仕事、買い物）	場所	何で（乗り物等）
	2 妻			
	3 子供			
	4			
	5			

- ・ 集落で行われている行事（種類、内容）参加しているか

- ・ 大切にしている信仰（仏様、水の神様 e t c）

- ・ 近隣との共同作業はあるか（あるーどう思うか）

- ・ 大切にしている食器、家具、道具はあるか（写真を撮る）

- ・ 日常生活で子孫に伝えたいこと

- ・ 今の生活と琵琶湖との関係はどの程度（どんな事で）

- ・ 日常生活で楽しい事、辛いこと、安心なこと

- 昔の付き合い方、現在の付き合い方、将来どの様な付き合い方になると予想されるか
- 近隣との付き合いのこつは
- 集落での助け合いのシステム（しくみ）はありますか
- 集落での年齢層による役割分担がありますか
- 集落で生活するうえで守らなければならない約束事（ルール）のようなものがありますか
- 集落に愛着がありますか
- 集落が20年後にどのように変化していると思いますか

2、家屋について

- 築何年
- 広さ（何畳の部屋なんしつ）
- 改築、修理を行ったことがあるか（どの場所、いつごろ、どんな理由で）
- 家の住み心地は（良い、悪い、狭い、広い、具体的に）
- 隠居の使用状況
- 将来どんな家に住みたいか（このままで良い、個室のある、住宅メーカーetc）

3、外部環境

- ・現在の道（良い、悪い、具体的に）
- ・現在の用水（良い、悪い、具体的に）
- ・現在湖とのかかわりは（良い、悪い、具体的に）
- ・樹木、草花、農作物とのかかわり（良い、悪い、具体的に）

4、集落のイメージ

- ・集落の歴史を知っていますか、ほこりに思っていますか
- ・集落の好きな場所
- ・将来集落をどのように変えていきたいか
- ・集落の生活で一番大切にしていきたいもの一つ
- ・ずっと住みつづけたいですか